

空飛ぶクルマ実装プロジェクト（I期） 令和7年度有識者レビュー結果

日時：令和8年3月4日（水）13:00～16:30

場所：新宿 NSビル

概要

令和7年10月に採択された2つのコンソーシアム（日本航空株式会社を代表事業者とするコンソーシアム、野村不動産株式会社を代表事業者とするコンソーシアム）より、令和7年度に実施した業務（令和8年3月4日時点）について報告。有識者が実施内容に対し、以下の3つの視点で評価。本評価結果等も踏まえ、次年度以降の事業を推進。

有識者からの主な意見

【離着陸場関係/有望ルート/運航サービス・ビジネスモデル】

○離着陸場関係

- ・ 離着陸場候補地について、制限表面や立地条件等、基礎的な検討が進められていることを確認
- ・ 具体的な工程の策定に向けて必要となる検討は着手されているものと理解
- ・ 関係者調整等、今後取り組むべき事項や課題等について整理し、計画的に調整を進める必要
- ・ 離着陸場の場所等が今後具体化していくことに併せ、課題等の洗い出しやスケジュールの精緻化が必要

○有望ルート

- ・ 将来の商用運航に向けた方向性が提示され、ユーザーニーズ等を踏まえた、複数の有望ルートが検討されている
- ・ 航空管制や高度・時間帯の制約等、空域条件等が整理され、可視化されている
- ・ 想定ルートについて、ニーズの有無を定量・定性の両面から検証し、想定ルートが商用運航として継続的な需要を有するか等、さらに検証を深める必要

○運航サービス・ビジネスモデル

- ・ 各プレイヤーの役割等全体像を示した上で、検討に着手されていることを確認
- ・ 離着陸場の調整状況等を見据えた運航ケースの検討が必要であり、計画の進捗に併せ、より高い精度の試算を実施する必要

【実証飛行関係】

○実証飛行計画

- ・ 離着陸場候補地ごとに飛行パターンを設定し、ルートや格納庫等、条件が分りやすく整理されている
- ・ 機体の開発状況等を精査し、実証飛行のシナリオを早期に調整する必要
- ・ 管制圏内での運用やその他条件等を踏まえ、飛行の実現可能性、リスクの整理などより具体的な運行計画について検討が必要

○効果検証

- ・ 運航モニタリングにとどまらず、包括的に定量・定性の両面から、効果的な検証方法を検討する必要

【社会受容性関係】

○実施方針

- ・ 複数の具体的な施策が検討、提案されていることを確認
- ・ 今後具体のルートが決まる中で、より対象を絞った受容性施策を検討することが望ましい
- ・ プロジェクト期間内に受容性が向上するための方策を予め想定し、計画的な方法を提案する必要

○効果検証

- ・ 各施策の狙いや期待される効果について一定の仮説を立てた上で、検証を実施している
- ・ 具体的に定量・定性面でどのように効果検証を行うか深掘する必要
- ・ アンケート等イベントの成果を次年度につながるようとりまとめ、以降の取組に反映する必要

○次年度の取組施策

- ・ 複数の具体的な施策が検討されていることを確認
- ・ 想定ルートにおける社会受容性を確認し、向上させるための施策を検討して欲しい

以上